

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

第9次 連合ボランティア

6月2日に集合した連合ボランティア第9次は、住田にある五葉地区公民館をベースキャンプとし7日間活動をしてきました。

1日目から3日目の活動は、大船渡市被災車両引き取り場にて、廃車手続きに来られた被災された方の車のナンバープレートはずしを行いました。津波で原形をとどめていない車が多々ある中、所有者の中には被災後はじめて自分の車を見て驚きの表情をうかべたり、車内の思い出の品を持ち帰ったりされていました。たくさんの被災された方と直接話ができる機会がありました。

2日目には水岡参議院議員がお見えになり、激励の言葉をいただき大きな活力となりました。



【激励にみえた水岡参議院議員（前列 左から4人目）】

4日目から6日目までは複数の班に分かれ、側溝の泥だし、個人宅の洗浄・木材の運搬等を行いました。肉体的にきつい作業でしたが、それぞれのメンバーが互いの体調に気遣いながら、無理をしないように活動しました。個人宅に関しては、家屋そのものが倒壊していたり、家屋は無事であっても汚泥が溜まっていたりする等、地震と津波の甚大な被害を改めて実感しました。私たちはちょうど震災から3ヶ月の節目にあたったのですが、被災者の心情が変化しつつある中で、未だ多くの瓦礫が残り、匂いが残っており、まだまだ復興には時間がかかると感じました。



活動の途中でベースキャンプに気仙地区協議会事務局長の吉野さんが訪問してくださり、震災直後の状況について、生の声を聞くことができました。報道では知り得ぬ事、被災地の実態を聞く事で、私たちがこれからどうしたらよいか、考えさせられ、言葉になりませんでした。吉野さんは「今日話したことを皆さんで広めてほしい。広げるというのは悲しみを共有するということではなく、これからどうやって対応していくかを一緒に考えていくことである。」と結んでおられました。

最終日の7日目は全員で赤崎地区の海岸で重油の撤去を行いました。具体的には、重油のついてしまった瓦礫は撤去し、泥と混じてしまったものは掘り出し、水に浮いているものは吸着シートで吸い出すというものでした。



連合ボランティア第9次における7日間の現地ボランティア活動は、連日炎天下の作業となり、暑さとのたたかいであったように思いました。全員が大きなけがや病気も無く終了し、被災地に実際に来て活動したことによって、それぞれが貴重な体験をし、多くのことを感じ、これから広めていくことと思います。これで終わりではなく、ここからがはじまりという気持ちになりました。



【第9次 ボランティア派遣メンバー】